

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 2 日
 所 属： 獣医 学部 獣医 学科
 氏 名： 金井 詠一 職位： 講師
 役 職：

I ティーチャング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

獣医学科臨床系科目の教育活動・研究活動を行っている。主たる教育活動は小動物腫瘍学、小動物外科学、獣医放射線学を担当している。卒業論文は、小動物外科学研究室の学生を指導している。課外活動としては、準硬式野球部の顧問である。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医外科学	獣医学科	必	4	140
獣医放射線学	獣医学科	必	2	140
小動物獣医総合臨床	獣医学科	必	5	140
総合獣医学	獣医学科	必	6	140
基礎・小動物獣医総合臨床Ⅱ	獣医学科	必	4	140
獣医外科学実習	獣医学科	必	5	140
獣医放射線学実習	獣医学科	必	5	140
小動物臨床実習	獣医学科	必	5	140
小動物病院実習	獣医学科	選	6	10
卒業論文	獣医学科	必	5, 6	2
獣医学特論	獣医学科	必	4, 5, 6	9

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

社会のニーズに合った知識や技術を提供できるような人材を育成するために、学生には自らの知識や技術で対価を貰うプロフェッショナル（国家資格有資格者）としての自覚を芽生えさせたい。プロフェッショナルは、必要な知識や技術を自主的に適時アップデートしていく必要がある。

現代の情報社会においては、最新情報を素早く大量に得ることが可能である。一方で、大量の情報の中から目的にあった情報を見つけ出すためには、個人的なインプットのみでは限界があるため、仲間との情報共有や生成系 AI を活用していく必要がある。

仲間との情報共有や生成系 AI を有効活用するためには、自身の持つ知識や技術を整理して正確にアウトプットする、すなわち「モノを伝える力」が必要となる。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

上記の理念を実現するために所属校では、学生が「獣医学に対する飽くなき探究心を持ち自ら学ぶ」、「チームワークや pay forward を大切にする」、「モノを伝える力」という方針で教育している。

「獣医学に対する飽くなき探究心を持ち自ら学ぶ」

- 暗記ではなく、持っている知識を基に考えて導き出すような思考回路を身につける。
- 卒論指導学生には、獣医学のみならず様々な視点から物事にアプローチできるように、外部機関との接点を提供している。
- 病院実習においては、まず「動物を診る力」を身に付けてもらえるようにしている。

「チームワークや pay forward を大切にする」

- 卒業論文や研究チームによっては勉強会や論文ゼミを行い、メンター制度を導入している。

「モノを伝える力」

- 論文ゼミや研究準備段階でプレゼンテーションを実施している。
- 外部機関との交流を通じて幅広い業種の方と接点を持つことで、多角的な考え方を身につけられるようにしている。

アクティブラーニングについての取組

自主的な論文ゼミを行っている。また、興味のあるテーマを決めて 2 週間に 1 回、学生主体の勉強会を行っている。

ICT の教育への活用

上記の資料や録画動画をクラウドで保管、共有している。また生成系 AI を一緒に使用することで、適切な使用方法を共有している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

- ①教育（授業，実習）の創意工夫（B）
- ②学生の理解度の把握（B）
- ③学生の自学自習を促すための工夫（B）
- ④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）
- ⑤双方向授業への工夫（B）

講義では暗記ではなく、理解していただくことを心がけている。学生の理解度を把握する手

段は、座学では個別の質問対応、授業評価と定期試験であった。実習は、主に少人数とのやり取りであったため、理解度の把握やコミュニケーションがしやすく、概ね良好だったと感じている。また講義後のアンケートでは狙い通りの学習効果や学習意欲を得られた反面、提出物や発表が煩雑であり、効率を求める意見もみられた。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

総合獣医学では、過去 3 年の試験問題の傾向を把握し、臨床現場に則した臨床的思考に基づく講義を行った。特定の疾患に対して「なぜ？」その検査や治療が行われたかを理解する講義を行った。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

自身が授業評価で直接コメントを貰うことは少なかったが、自身が担当する科目では教員によって両極端な評価がなされている。それぞれの先生の講義方法を把握し、良い点を取り入れるようにしている。

② ①の結果はどうでしたか。

授業評価では明らかな効果はみられなかった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

リアルタイムアンケートを駆使し、双方向の講義に取り組んでいく。

6. 学生の学修成果 (分量の目安: 4～7 行 (160 字～280 字))

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

卒業論文指導者との論文ゼミや卒論の進捗状況発表を行っている。自ら調べて、アウトプットする力を養っている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

卒業論文指導学生が大学院へと進み、海外留学をする予定である。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) (分量の目安: 1～2 行 (40 字～80 字))

診療業務とかぶらないときは極力参加している。オンラインの録画配信はとても助かる。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。

短期的な目標

現在の教育現場においてデジタルコンテンツはかけがえのないものとなったが、アナログの良いところも再認識し、それもかけがいのないものだった。両者を融合し、教育効果の高いコンテンツを生み出していきたい。

長期的な目標

外部機関との研究を通じ、様々な分野で活躍できる獣医師を育てていく。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

- シラバス
- FD 研修
- 授業評価、メールのやりとり

参考

※ ティーaching・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーaching・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーaching・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡